

わたしたちの人権 61

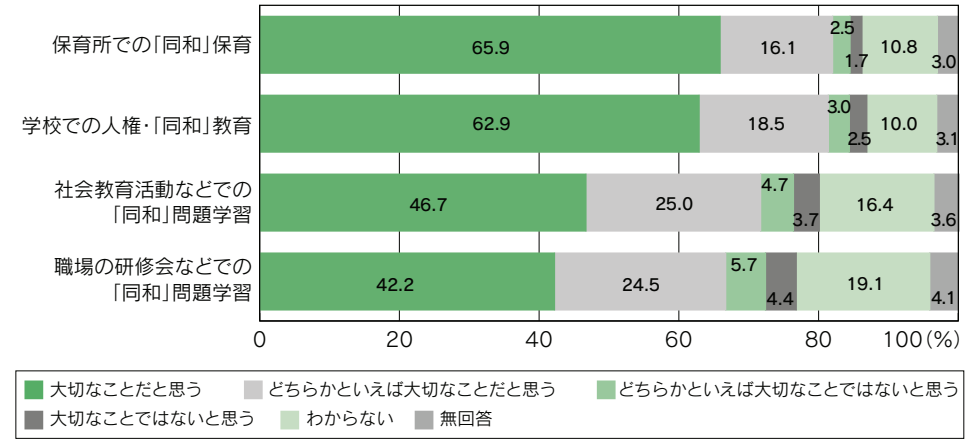
だれもが人間として生きていくうえで
 侵すことのできない当然の権利
 これが「人権」です

山都町人権・「同和」 教育に関する 町民意識調査から②

平成21年11月に山都町人権・「同和」教育に関する町民意識調査を実施しました。この調査は、「同和」問題を解決し、あらゆる差別をなくしていく「同和」教育と、啓発活動を進めていくうえで基礎資料を得ることを目的に実施したものです。

現在、調査結果の概要をまとめた報告書を作成していますが、このコーナーでは、前回に引き続き調査結果の一部を紹介いたします。

上のグラフは、「『同和』保育や『同和』教育などについてどう思いますか」という問いに対する答えを表したものです。保育所での「同和」保育や学校での「同和」教育については、8割以上の方が「大切なことだと思う」または「どちらかといえば大切なことだと思

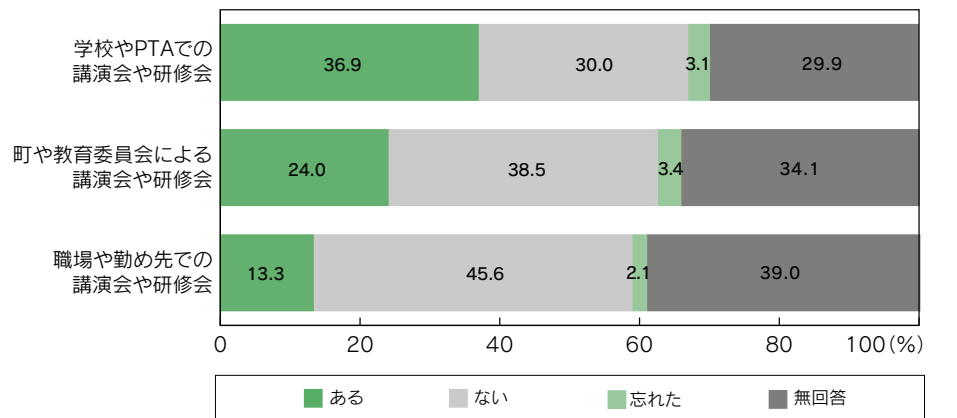


う」と答えています。また、社会教育活動や職場の研修会などにおいて、大人になってから「同和」問題を学習することについても、約7割の人が同じように答えています。

あらゆる差別をなくすために部落差別から学ぶことの重要性が広く認識されてきたことは、長年にわたる取り組みの成果であるといえます。

次に、下のグラフは、「各種人権講演会や研修会へ参加したことがありますか」という問いに対する答えの一部を表したものです。「参加したことがある」と答えた人が多かった学校やPTAでの講演会や研修会でも、36.9%と約3人に1人となっています。「同和」問題を学ぶことは大切だと思いがちながらも実行できていないというこの結果は、学習に参加する機会がないということも一つの原因かもしれません。自分とはあまり関係がない」という意識があるからではないでしょうか。

町では、さまざまな分野における学習の場づくりや魅力ある講演会づくりはもとより、「人権問題は誰にでも関係するものである」という意識を高めるための啓発活動にも力を入れていく必要があると考えています。



季節のうた

▼清和短歌会から
 老いの影見せざるままに逝きたりし母の黒髪
 うつしえに
 回顧せば悲しきことも数ありき吾れをつつみて
 雪降り頻る
 捨てもせず着ることもなき古服を今日も仕舞いし
 性は切なし
 米田定

▼馬見原酔山会から
 節分や期日指定で豆届く
 遠見えて山火に煙一すちに
 うぐいすの初音しみじみ床の中
 やまなみの会から
 庭の草むしりておれば亡き妻の失せしカフスの
 ボタン見つけり
 能登多喜智

▼雪景色恋う
 朝夕に冷え込みきびしき頃となり阿蘇の御山の
 賀状書き終えて「正月さあ来い」と気持構えど
 荒木由紀子

▼何も手つかず
 山下弘子

▼里人の湧水浚へ春待てり
 岩崎延枝

▼身ほとりに辞書と歳時記春近し
 赤澤扶光子

▼山里に身を引き締めて寒迎ふ
 水野信子

▼通潤句会から
 初音聞く日ざし明かるき杵山
 広津真知子

永年の功労に表彰

込山憲司議員が、全国町村議会議長会と熊本県町村議会議長会から永年表彰を受けられました。この表彰は町村議会議員として30年以上在職し功労のあった方に贈られるものです。込山議員は昭和54年から町議会議員に在職されています。表彰状は、3月4日の町議会定例会の冒頭で、藤川議長から伝達されました。

また、中村益行議員も全国町村議会議長会の創立60周年を記念した特別表彰を受けられています。



表彰を受ける込山憲司議員

書道



和光教室書道部の片山久男さん(須原)作

編集後記

今号では各方面で表彰された方々を掲載しました。取材に何うと、どなたも目を輝かせて、丁寧に話してくださいました。知らないことばかりで驚きの連続でした。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。編集集中にも、次々と輝かしい表彰の報が届いています。次号でもご紹介したいと考えています。今年の出初め式では、2年に一度の操法競技が行われました。各分団の精鋭が行う一発勝負の競技。撮る私も、操法初取材の一発勝負。なんと写真が撮れませんでした。あの寒風の中、操法競技が終わるころには少し汗をかいていました。選手の皆様お疲れ様でした。